

「武田信玄」人形衣裳 修理前と修理後

「八戸三社大祭の山車行事人形衣裳修理業務報告書 武田信玄人形衣裳」
女子美術大学染織文化資源研究所(令和3年10月)より



修理前（平成30年撮影）

①陣羽織 ②袖 ③袖襦袢 ④袴 ⑤腰巻 ⑥帯、衿



修理後（令和5年撮影）

①陣羽織 ②袖 ③袖襦袢 ④袴 ~~⑤腰巻~~

⑥帯、衿

※⑤腰巻は本来の衣装ではなかったため取り外した

①陣羽織

赤ウール地に破れ、切付の武田菱のラシャにも欠損。玉縁(パイピング)が本体から外れ、裏地の緞子地も緯糸が全体的に外れていた。



②袖

銀欄地の経糸が外れたため広範囲に平銀糸がずれており、生地も弱くなっていた。
袖口のベルベット、内側の羽二重、木綿布が欠損し、内側の綿が飛び出していた。



③袖襦袢

袖の内側に着用するため大きな損傷はなかったが、シミなど汚れが付着していた。



④袴

腰巻をつけているため、銀襷部分の大きな破れや欠損は見られないものの、袴の裾部分は大半の生地が欠損し、芯地に使われていた和紙が露出している状態だった。



⑤腰巻

比較的状态がよく、表裏ともに大きな破れや欠損などはないが、裾の裏側の羽二重が劣化していたり、使用の上で軽微な手直しをした形跡があった。



⑥帯、衿

帯は生地が欠損が激しく、綿が飛び出していた。

平らな綿を羽二重で包んでいる衿は、縫製の糸がすべて外れていた。



○肉布団

人形に厚みやふくらみを持たせるために使用している肉布団は、綿がよれており、ふくらみもなくなっていた。



※使用の際、紐取り付け部分から生地が破損しないよう、新たに木綿生地で袋を製作し、その中に肉布団を入れた。